

## 20代男女の観光エリア・スポット別の旅行経験率

～ 観光経済の中長期的安定を担う若者の旅行実態 ～

観光地karteレポートvol.3では、“20代男女”における観光エリア・スポット別の訪問経験率データをご紹介します

新規需要の掘り起こしや、リピーター化をめざした観光客の早期囲い込み等を図っていく上で、市場の注目を集める20代の“若者”たち。

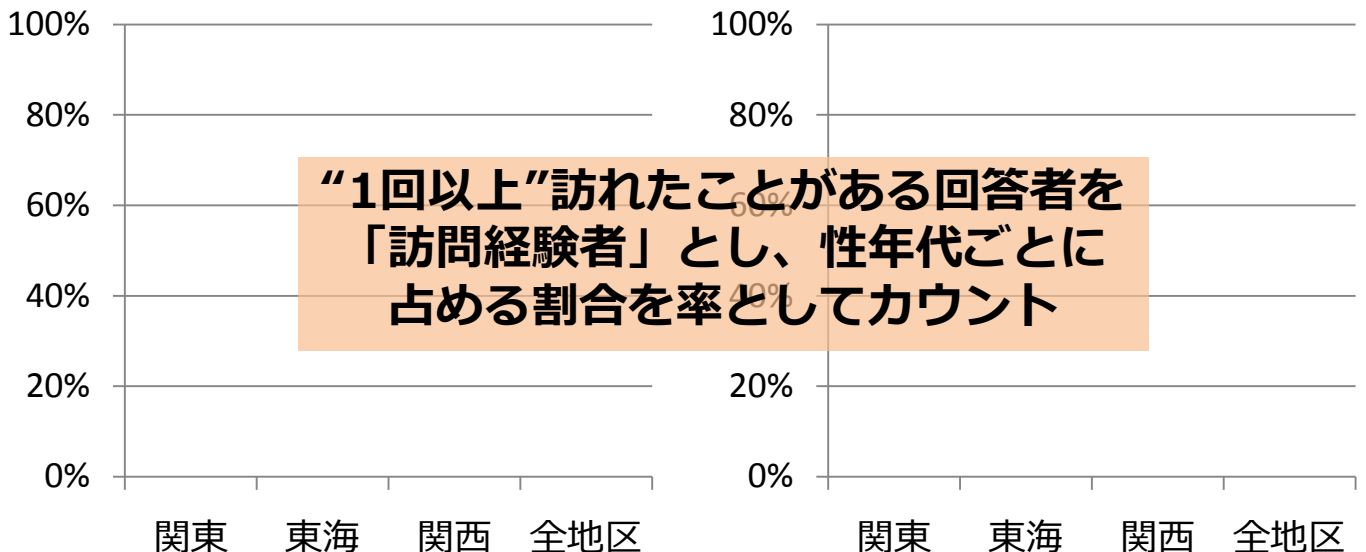
JTAでは彼らの動向に着目し、まずは今現在、各観光エリア・スポットが、修学旅行等による受動的訪問も含め、居住地別にどの程度のボリュームでその実需獲得に成功しているかについて数値把握を試みてみました

今回のレポートでは、「銀座・浅草・スカイツリーエリア（東京）」「京都」「東大寺・興福寺・春日大社エリア（奈良）」「伊勢・志摩エリア（三重）」「兼六園・香林坊・ひがし茶屋街エリア（金沢）」「あべのハルカス（大阪）」「熊野古道」「鹿児島」の8エリア・スポットに関する数値をご紹介します

Q. あなたは各エリアやスポットについて  
観光を目的に、これまでどの程度訪れたことがありますか  
【選択肢（4択SA）】5回以上、3～4回、1～2回、訪れたことはない

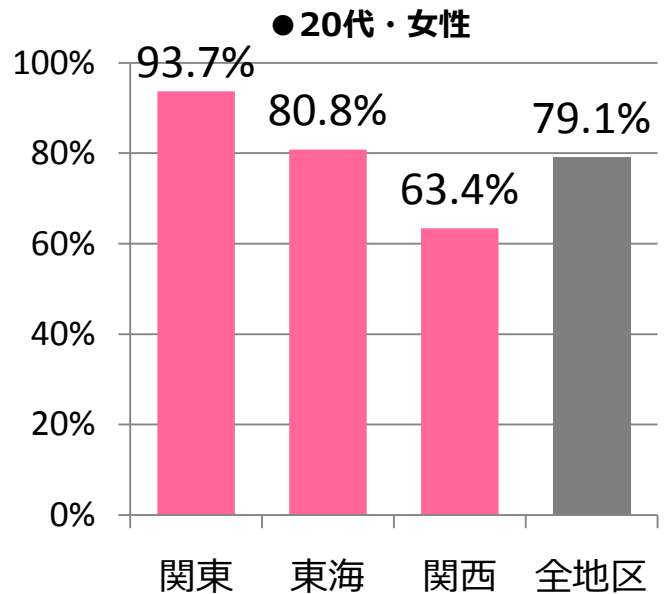
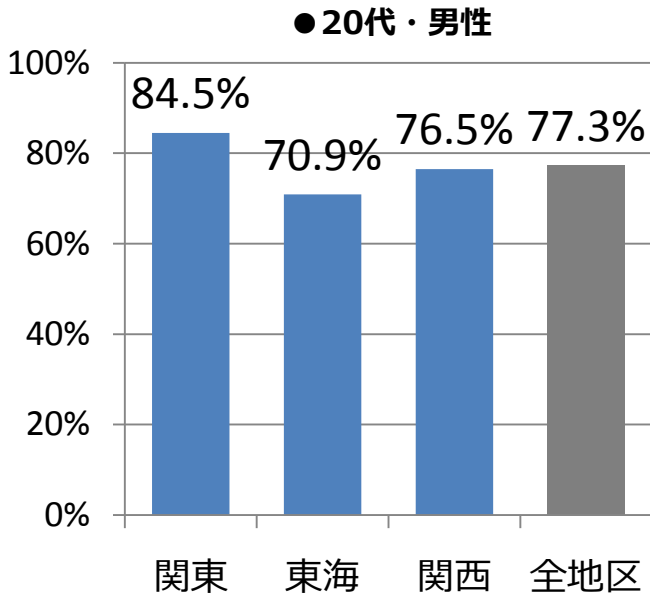
### ● 20代・男性

### ● 20代・女性



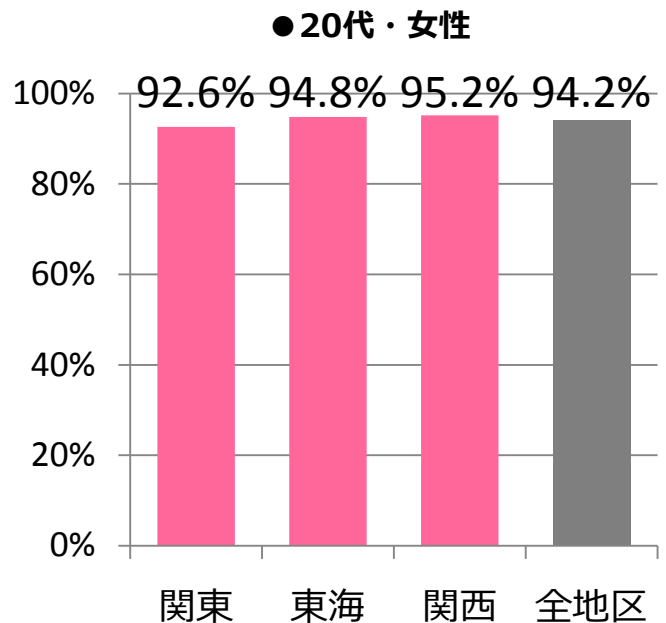
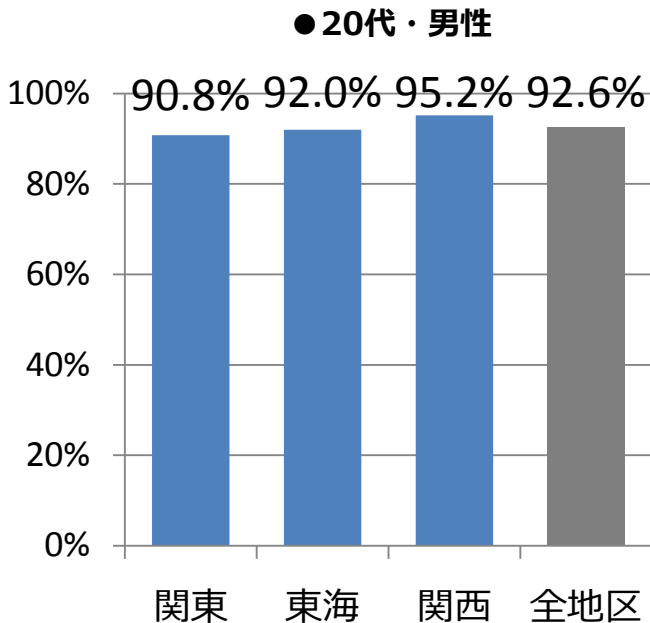
## 銀座・浅草・スカイツリーエリア（東京）

他エリア・スポットと比較すると全体的に訪問経験率は高く、関東・東海圏在住者で女性のポイントが10ポイント程度上回る一方、関西圏では男性のポイントが10ポイント以上も上回った。“東京”は多様性があるため、別エリアでは異なる数値となることも推察される



## 京 都

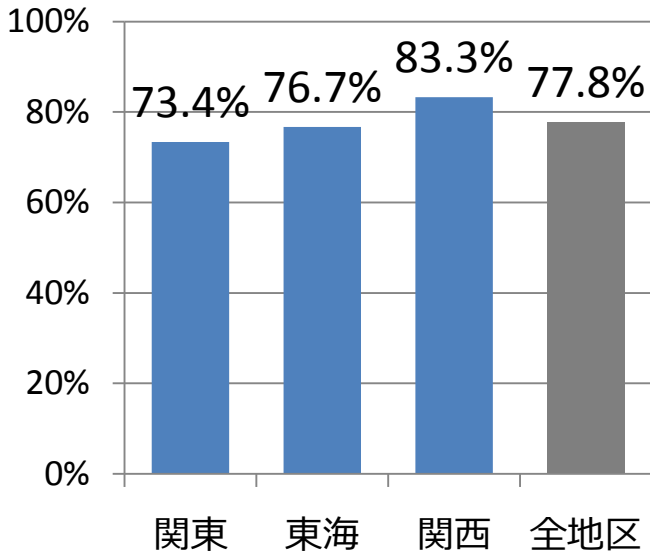
修学旅行訪問の影響が大きいと推察されるが、対象とした全エリア・スポットの中で訪問経験率は最多。なお、今回のグラフでは紹介していないが、大部分の性年代で90%以上の訪問経験率となっている



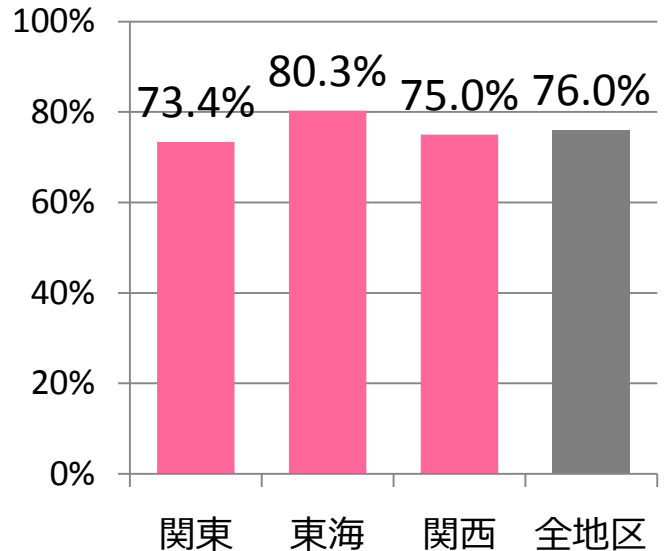
## 東大寺・興福寺・春日大社エリア（奈良）

京都と同じく修学旅行訪問の影響が考えられるが、全体的に高い訪問経験率となっている。調査設計上エリアを限定したため、県内の他エリアも加えると、さらに数値が上積みされることも推察される。女性層では、東海圏在住者が、地元関西圏を上回った

●20代・男性



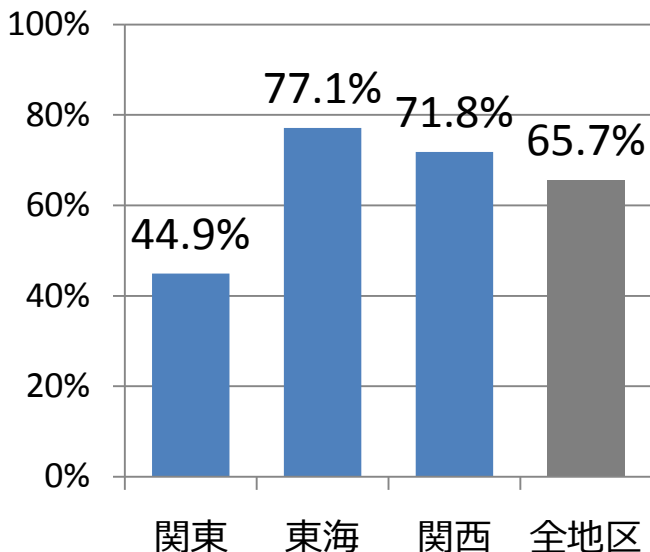
●20代・女性



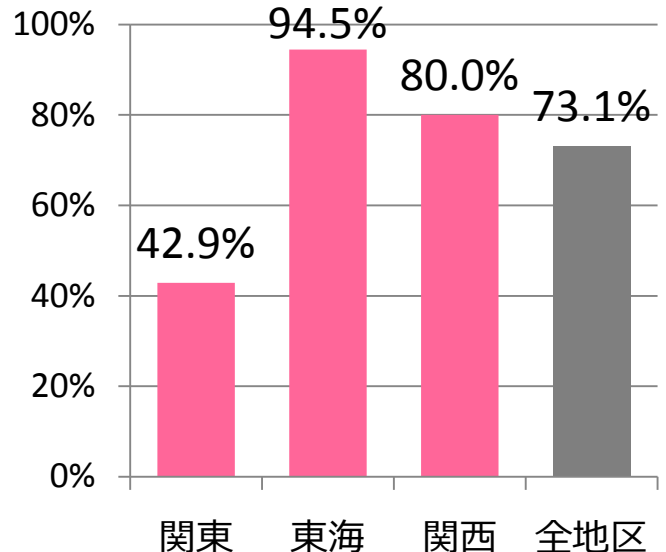
## 伊勢・志摩エリア（三重）

女性層の訪問経験率が男性層に比べて高く、東海圏在住者では94.5%と京都に肉薄する勢い。女性層は男性層を顕著に上回る傾向がある（関東圏のぞく）ことから、修学旅行等の受動的訪問以外の需要も獲得していることが推察される

●20代・男性



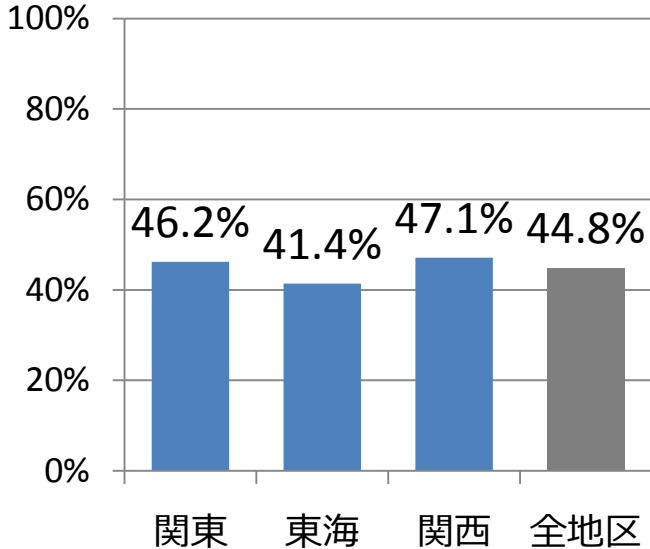
●20代・女性



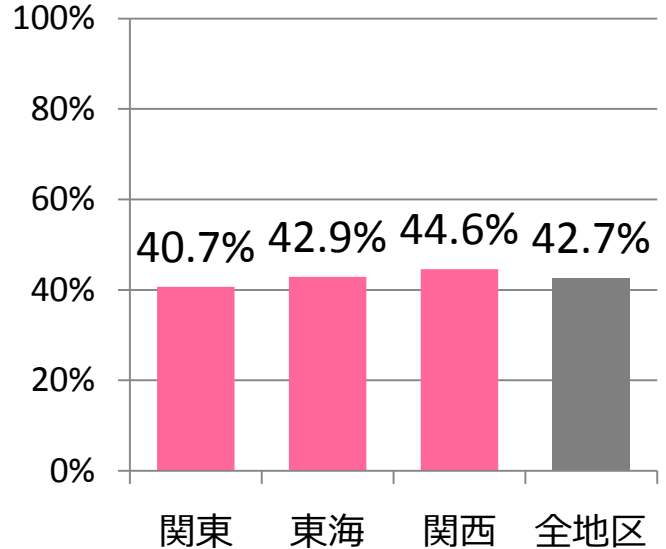
## 兼六園・香林坊・ひがし茶屋街エリア（金沢）

男女とも僅かに関西圏在住者が最多となるが、性別・居住エリアの間に顕著な差はみられず、概ね45%前後の訪問経験率となっている。当調査は北陸新幹線の開業前のデータとなるため、開業後の数値変化が今後も注目される

● 20代・男性



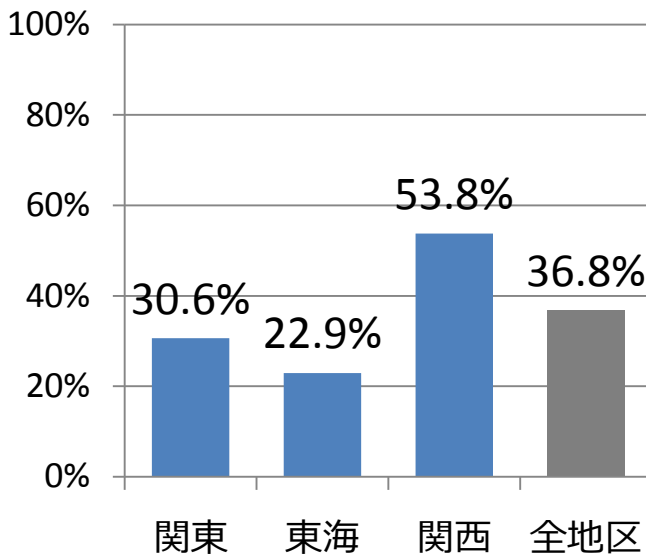
● 20代・女性



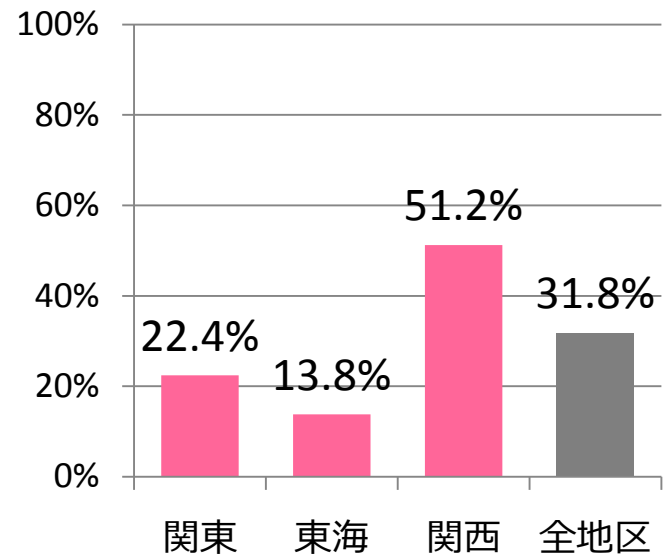
## あべのハルカス（大阪）

地元関西圏が男女とも50%を超え最多となっている。関東圏と東海圏との比較では、男女とも関東圏が上回っており、現状ではスポットとの距離に反比例した結果となっている

● 20代・男性



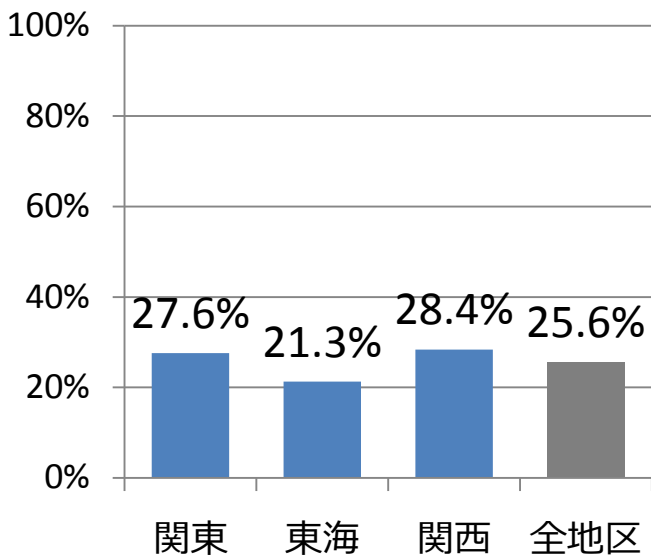
● 20代・女性



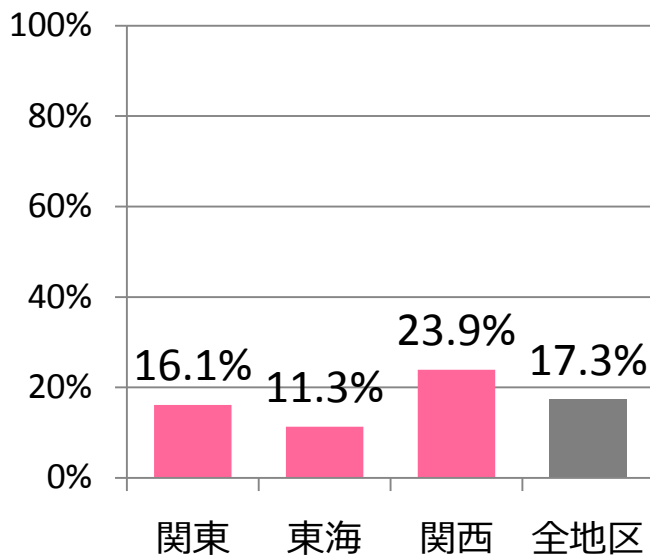
## 熊野古道

全体的に、男性層の訪問経験率が女性層と比べて高い。関東圏では3割に迫る数値となっており、今回のグラフでは紹介していないが、同圏における年代別割合で最も高いスコアとなっている（2位は60代の23.1%）

● 20代・男性



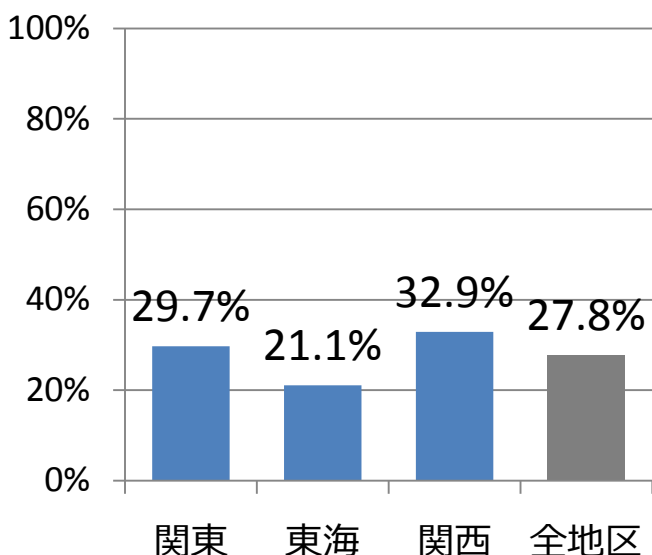
● 20代・女性



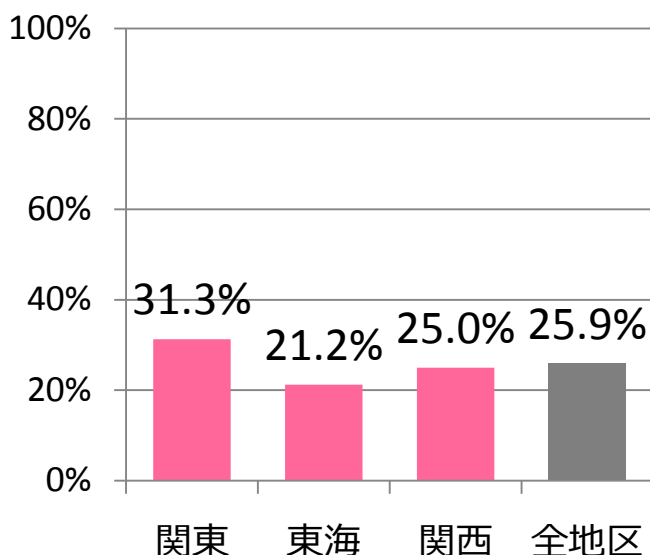
## 鹿児島

男性層では僅差ではあるが関西圏在住者、女性層では関東圏在住者の訪問経験率がいずれも3割を超えて最多となるという他エリア・スポットではあまりみられない数値傾向となった

● 20代・男性



● 20代・女性



## ●調査結果から

20代の訪問経験率については、修学旅行の影響がやはり大きいと考えられますが、結果として「京都」が9割以上の数値を獲得しており、おそらく同様の影響で、「銀座・浅草・スカイツリー（東京）」「東大寺・興福寺・春日大社（奈良）」が8割以上でこれに次いでいます

それ以外のエリア・スポットの特徴的な傾向をみていくと、「伊勢・志摩エリア（三重）」では、東海圏20代女性層の訪問経験率が94.5%と「京都」に匹敵するスコアを獲得しており、これは同圏の20代男性層を2割弱上回ると共に、他圏の20代女性層を顕著に上回る数値となっています（関東圏女性層との差は51.6%と特に顕著）

また、「兼六園・香林坊・ひがし茶屋街エリア（金沢）」は男女・居住エリアいずれも40%～50%の経験率となっており、20代の訪問経験をバランスよく獲得している様子がうかがえます

これ以外のエリア・スポットの数値をみていくと、概ね2割～4割（全地区）の訪問経験率となっており、単純に考えると、20代の中でまだ5割を優に超える訪問未経験者が存在しているということになります

なお、全地区の男女比でみてみると、「京都」「銀座・浅草・スカイツリー」「伊勢・志摩」は女性層の数値が上回りましたが、それ以外の5エリア・スポットでは男性層が上回るという結果となりました

## 調査概要

調査方法	インターネットリサーチ
調査地域	関東圏（東京都, 神奈川県, 埼玉県, 千葉県） 東海圏（愛知県, 岐阜県, 三重県, 静岡県） 関西圏（大阪府, 京都府, 兵庫県, 奈良県, 滋賀県, 和歌山県）
調査対象	20歳～69歳の男女かつ、過去1年間で宿泊を伴う国内旅行の経験者
割付方法	エリア（首都圏, 東海圏, 関西圏）×年代（20, 30, 40, 50, 60代）人口構成割付比で回収 / 合計3,000サンプル
調査日時	2014年11月
調査機関	株式会社ジェイアール東海エージェンシー 株式会社ビデオリサーチ

<調査結果の引用・転載、取材などに関するお問い合わせ先>

株式会社ジェイアール東海エージェンシー コミュニケーションデザイン部 担当：小方・大橋

TEL: 03-6688-4779 e-mail: k-ogata@jrta.co.jp